

103-222

問題文

光線過敏症に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. すべての光線過敏症は、ガラス窓の内側にいれば防ぐことができる。
2. 春先に採取されるアワビの中腸腺には、光線過敏症の原因となるフェオフォルビドが蓄積することがある。
3. 光線過敏症は、宇宙から地上に降り注いでいるUVCが主原因である。
4. ケトプロフェンによる光線過敏症では、光エネルギーにより薬剤中のベンゾフェノン部分が反応し、抗原物質になると考えられる。
5. 着色料の二酸化チタンは光線過敏症を起こすので、現在食品添加物として使用されていない。

解答

問222：1問223：3, 5問224：2, 5問225：2, 4

解説

問222

選択肢 1 ですが

UVA は、波長が長く透過性が高い紫外線です。肌の表面が赤くなる原因は UVB です。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2～5 は、正しい記述です。

以上より、正解は 1 です。

問223

選択肢 1 ですが

紅斑とは、血管が「拡張」して 充血した状態です。「収縮」ではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

メラニンの産生は、メラノサイト（色素細胞）によるものです。肥満細胞ではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は、正しい記述です。

選択肢 4 ですが

記述は逆です。海水浴に行って日焼けする時を 思い出すとわかりやすいと思います。まず皮膚が赤くなり、帰って数日で日焼けしたことがあるのではないのでしょうか。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は、正しい記述です。

以上より、正解は 3,5 です。

問224

ジクロフェナクナトリウムは、光線過敏症の副作用が知られています。また、フェノフィブラートは 添付文書によれば 頻度不明ですが、光線過敏症が起こりえます。従って、正解は 2,5 です。

問225

選択肢 1 ですが

室内のガラス越しの日光でも UVA は透過しており、光線過敏症の症状が起きることがあります。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい記述です。

選択肢 3 ですが

UVA や UVB が原因とされています。UVC はそもそも地表までほぼ届きません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

選択肢 5 ですが

二酸化チタンは、代表的散乱剤です。日焼け止めの成分として用いられます。また、白色着色料として食品添加物として用いられます。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,4 です。